

医療経営・管理学専攻

I	教育の水準	教育 19-2
II	質の向上度	教育 19-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 病院管理業務や DPC データ分析等の実務経験を有する教員を8名配置している。
- ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施や、全科目で授業評価アンケートを行うなど、教育内容・方法の改善に取り組んでおり、平成26年度に実施した授業評価アンケート（4点満点）では、全科目の平均は3.7、学生自身の自己評価は3.3となっている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 必修科目及び選択科目では、病院・診療科・手術の見学や SPD（Supply Processing & Distribution：院内物流）の倉庫見学、裁判所見学等、現場で教育を受ける機会を設けている。また、「医療経営学」、「病院管理論」等では、第一線の実務者や専門家を招き、講義のほか討論・質疑の機会を設け、実践教育の充実を図っている。

以上の状況等及び医療経営・管理学専攻の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生の学位取得率は、おおむね100%となっている。また、修了条件として、論文、調査、ケーススタディ、教材作成等の最終成果物の提出を課しており、平成22年度から平成26年度における査読のある学術雑誌への論文掲載数は19件となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 就職率はおおむね 100%で、9割以上は医療機関、行政、NPO、シンクタンク、企業、大学、研究所に就職している。
- 卒業・修了生への意見聴取では、教育方法や講義・演習の内容について、肯定的な回答は8割以上となっている。また、進路先・就職先等の関係者への意見聴取では、修了生の能力について、優れているとの回答は8割以上となっている。

以上の状況等及び医療経営・管理学専攻の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 病院・診療科・手術の見学をはじめ、様々な現場で教育を受ける機会を提供し、実践教育の充実を図っている。
- 必修科目と選択科目に加え、フィールドワーク、論文等の研究成果物への取組を通じて、問題解決能力を身に付ける教育を行っている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 学位取得率は、おおむね 100%となっている。また、査読のある学術雑誌への論文掲載数は、平成 22 年度の 2 件から平成 26 年度の 8 件となっている。
- 修了生は、9 割以上は医療機関、行政、NPO、シンクタンク、企業、大学、研究所に就職しており、進路先・就職先等の関係者への意見聴取では、修了生の能力について、優れているとの回答は 8 割以上となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。